

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K06359

研究課題名(和文)舟小屋等の環日本海の伝統的民家における文化伝播の検証

研究課題名(英文)A study on traditional houses which located along the Sea of Japan

研究代表者

小林 久高(KOBAYASHI, HISATAKA)

島根大学・総合理工学研究科・准教授

研究者番号：80575275

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本海沿岸部に分布する伝統的民家建築について、舟小屋を主な調査対象として現地調査を実施した。舟小屋については九州から北陸にかけての悉皆的な調査を行い、特に集中して分布が確認された隠岐の島町における詳細な現地調査を実施し、報告を作成した。日本海沿岸部における特徴的な建築物としては、江津市の神楽殿、東出雲の柿小屋、荒島の石造建築物を選定し、建築構法の詳細な記録を作成したうえで、今後の街づくりに活用可能な資料として取りまとめた。沿岸部における町並み景観として、美保関、安来を選定し、基礎的調査を実施した。

研究成果の概要(英文)：We conducted field survey about boathouses on the Sea of Japan coast. We investigated from Kyushu to Hokuriku area, and found many boathouses in Nishinoshima. The other characteristic buildings are found in Goutsu (Kaguraden), Higashi-Izumo (Kakigoya) and Arashima (Stone houses). We investigated them and made record about the structure. And we investigated about view of streets in Mihonoseki and Yasugi basically.

研究分野：工学

キーワード：民家 付属小屋 舟小屋 木造 石造 構法

1. 研究開始当初の背景

日本海は、かつては大陸文化を日本に伝える交易路であり、また南北の日本列島を水運で結ぶ物流の大動脈であった。民俗学(民族学)や考古学の分野においては、日本海を介した様々な文化の伝播に関する検証が行われてきているが、建築技術とそれにまつわる住まいの文化の伝播については、具体的な検証を行なったものはほとんど見られない。また、日本海沿岸部には多くの特徴的な伝統的民家建築が残されているが、特に山陰地方においては調査報告が乏しく、記録されることも無く姿を消して0いく建築物が多い。建築分野の主な既往研究としては、日本海沿岸に広く分布する舟小屋を対象としたもの(伊藤昌明ら 1999、など)が見られ、概要を報告する書籍も出版されている(「舟小屋」INAX 出版 2007)。しかし、詳細な建築構法の検討や、地域の生活・地域交流の視点からの分析が不十分である。また、日本海交易を担った北前船の船主の館を調査したもの(長島清高ら 2012)や、雁木通りの分布を北前船の海運と関連付けて検討したもの(菅原邦生 2009)が見られるものの、建築構法と文化伝播を関連付けた検討には至っていない。特に付属屋等の民家建築に関しては、日本海における文化交流の視点から調査整理を行なった事例は確認されていない。日本海沿岸の建築関連資料を収集整理したうえで新たな調査資料を追加し、文化的な視点から再整理を行なうことで民家建築物の文化伝播に応じた相対的な位置づけが可能となるのではないかと。

2. 研究の目的

本研究においては、日本海沿岸部に分布する伝統的民家建築について、建築構法の詳細な記録を作成したうえで、日本海交易のもたらした暮らしと文化の視点から建築空間の形成要因を読み解いていく。主な研究対象は事例報告の少ない付属屋とし、特に九州から東北までの日本海沿岸部のみ分布が報告されている「舟小屋」を分析のための主な指標に選定することで、文化の伝播による民家の地域的な展開を相対的に明らかにする。伝統的民家建築の文化的価値を総合的に示すと同時に、今後の街づくりに活用可能な資料として取りまとめることを目的とする。

3. 研究の方法

日本海沿岸において広く現存しており、多様な建築構法と利用法をもつ「舟小屋」を主な研究対象として選定することで、広域比較のための基準を作成していく。舟小屋の調査研究を通して地域の建築空間の構成思想を把握し、主屋等の他の建築物を含めた比較検討を行なっていく。具体的な作業内容は、以下の3点である。

① 文献調査

中国地方を中心とした日本海沿岸におけ

る伝統的民家建築物に関する既往研究の収集を行ない、特に舟小屋を中心とした付属建築物の分布状況を確認・整理する。

② 現地調査

特徴的な舟小屋等の詳細な記録を作成する。また、報告事例がありながら未調査である建築物に関する概要調査を行ない、必要に応じて詳細な調査を実施する。

③ 情報分析

舟小屋等の水辺の建築物の事例を対象を絞り、日本海沿岸という軸線の上での分布傾向とその文化的な位置づけの整理を行なう。

4. 研究成果

日本海沿岸部における九州から北陸にかけての現地調査を実施し、各地において伝統的建築物に関する記録を作成した。特徴的な地域に関して、概要を報告する。

(1) 島根県隠岐の島町の舟小屋

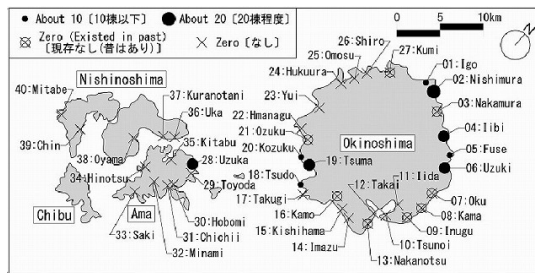
隠岐の島町を中心として、舟小屋の分布が確認された海士町、西ノ島町において悉皆調査を実施した。全ての舟小屋に関する外観・寸法の記録を作成し、立地と使用法に関する聞き取り調査を行った。舟小屋の立地と建築構法を類型化し、自然条件と社会的背景から検討した。



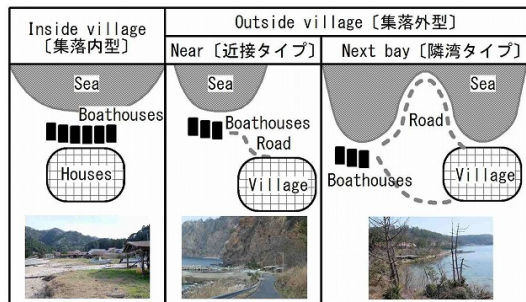
一般的な舟小屋







海士町宇受賀の舟小屋群



隠岐諸島における舟小屋の分布状況



舟小屋の立地類型

	Gable roof [切妻屋根] : 67(88)	Shed roof [片流れ屋根] : 6(41)
Solo [単独]	 Uzuki [卵敷] Number of boathouses : 65(67)	 Tsudo [津戸] Number of boathouses : 2(4)
Continuous [連続]	 Tsuna [都万] Number of boathouses : 2(21)	 Uzuka [宇受賀] Number of boathouses : 4(37)

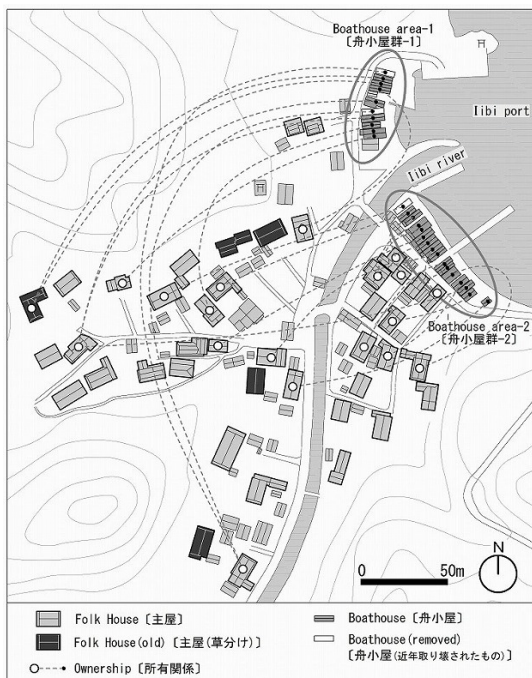
※舟小屋の全棟数は73棟。全区画数は129区画。
※数値は舟小屋の棟数、()内の数値は区画数。

舟小屋の形式の類型

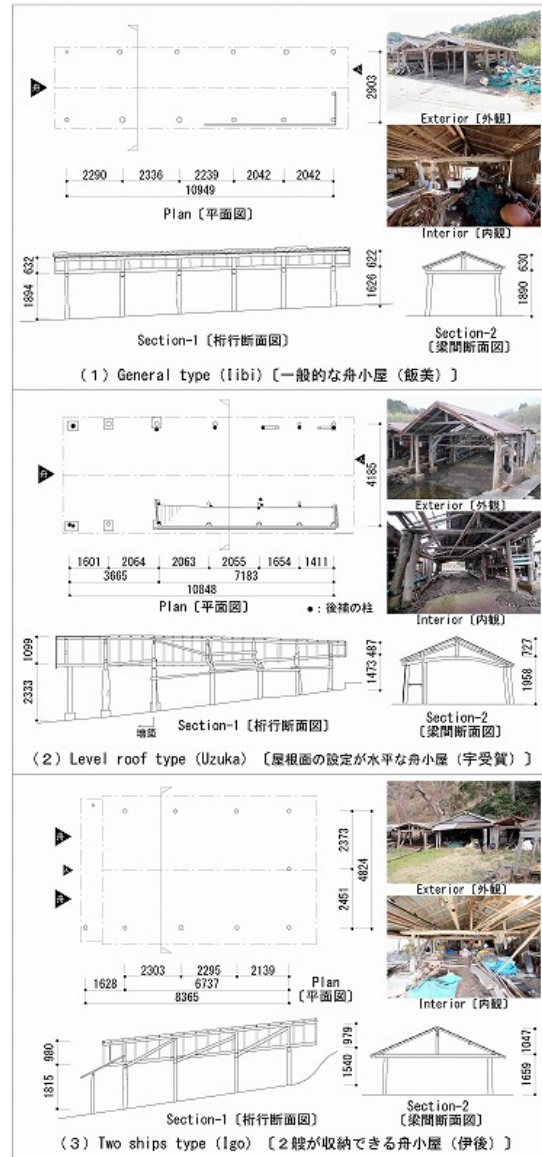
特に多くの舟小屋が見られる飯美集落において、舟小屋の立地と所有関係について確認した。

また、特徴的な舟小屋を選定して詳細な実測調査を行い、使用樹種や建築構法に関する検討を行なった。

結論として、分布については、崖地が少なく、自給自足的な農業・漁業を行なっているが生産性が高い地域、または商業や工業等が発展し、比較的経済に余裕のある地域において多数の舟小屋が建設されてきたことを明らかにした。舟小屋の類型については、単独型と連棟型に大別したうえで切妻屋根と片流れ屋根に細分類した。また、全舟小屋の基本寸法を比較検討することで、各類型や地域ごとの傾向を示した。さらに実測調査に基づいて、代表的な事例の建築構法の詳細について確認した。



飯美集落における舟小屋の立地と所有関係



代表的な舟小屋の実測図面

(2) 島根県東部(島根半島)の舟小屋

日本海沿岸部と宍道湖周辺、大橋川周辺地域においては様々な舟小屋の形式が確認された。沿岸部での採集的漁業、宍道湖においてはシジミ漁、大橋川周辺では河川の中洲に設けられた農地への移手段など、舟の利用法が異なることから舟小屋の立地や構造も異なったものとなっている。このように一定の地域内において形式の異なる舟小屋が複数確認されることは珍しく、他地域では見られない特徴である。



松江市西尾(農地への移動)



松江市大海崎(赤貝採集)

(3) 日本海沿岸域(九州～石川県、佐渡島、下北半島)の舟小屋

日本海沿岸を悉皆的に調査し、舟小屋の現存状況と建築形式の確認を行った。既存の報告の見られない新たな舟小屋の形式として、佐渡島における牡蠣小屋を確認した。岩牡蠣の養殖に対応して建設された舟小屋で、収穫した牡蠣を加工するための小屋に舟小屋が併設された構造となっている。比較的近年の建設と考えられるが、他地域に類例のない建築形式として注目される。



佐渡島の舟小屋



佐渡島の牡蠣小屋

(4) 島根県江津市周辺の神楽殿

江津市周辺では伝統的な大元神楽が傳承されており、神社には神楽を舞うための神楽殿が併設されることが多い。社殿の配置を類型化したうえで、代表的な事例の実測調査を行った。また、神楽を演じる際に設けられる仮設の客席に関する調査も実施した。神社にありながら本殿をもたない特殊な形式が見られるなど、民俗的にも興味深い。



邑南町の神楽殿



江津市の神楽殿

(5) 島根県東出雲町畑集落の柿小屋

柿小屋は干柿を作ることに特化した常設の付属小屋であり、他地域においては類例が見られない。かつては牛小屋の上部に茅葺きの乾燥小屋を設けたものであったが、近年ではアルミサッシを四周に配置した3～4層の小屋も建設されており、様々な建築構法が確認された。



古い形式の柿小屋



新しい形式の柿小屋

(6) 島根県東出雲町荒島の石造建築物

荒島においては日本では珍しい組積造の石造建築が見られる。大谷石に似た「荒島石」を用いており、石蔵・納屋・牛小屋・主屋の附室のほか、基礎石として多用されている。



石造の事務所



1階のみ石造の牛小屋

(7) 島根県安来市安来の町並み調査

安来は古くから鉄の積出港として栄えた地域であるが、伝統的建築物の現存状況や建築的特徴に関するまとまった報告が見られない。悉皆調査により多数の伝統的建築物が現存することが確認し、特徴的なものについて実測調査を実施した。神棚を設ける部屋の天井を高く設定する傾向があり、地域の町屋の特徴となっている。



安来の町並み



神棚

(8) 島根県松江市美保関の町並み調査

かつては交易港として繁栄した地であり、伝統的な景観と建築物が現存している。伝統的建築物の現存状況や建築的特徴に関するまとまった報告が見られないことから、継続的な調査を実施している。



美保関の景観



美保関の町並み

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

1. 小林久高/釜床美也子/安高尚毅、隠岐諸島における舟小屋の分布状況と立地・構法の特性、日本建築学会計画系論文集 第743号、査読有、2017、pp. 21-31

〔学会発表〕(計1件)

1. 安高尚毅/小林久高、安来市荒島の町並みと荒島石の建造物、日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)、2016、pp. 511-512

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 久高 (KOBAYASHI, HISATAKA)
島根大学・総合理工学研究科・准教授
研究者番号：80575275